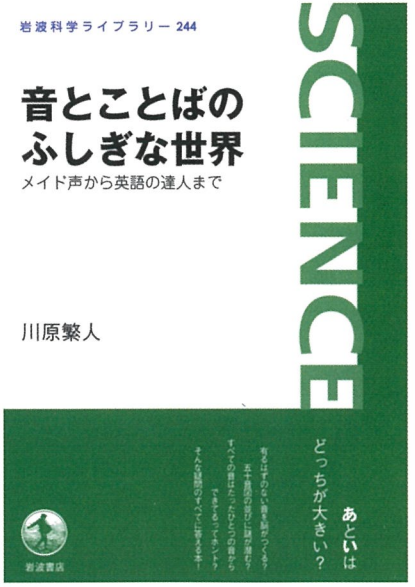

私たちが話し、聞く「音声言語」の分かりやすい解説

『音とことばのふしぎな世界—メイド声から英語の達人まで』

川原 繁人 著　岩波書店　1200円+税　発行2015年

「音声学」って、聞いたことがありますか？ 音声学とは、言語学の一分野で、人間が発したり聞き取ったりする「音声言語」を科学的に研究する分野です。なぜ英語のｒやｌが日本人にとって聞き取りにくいのか、なぜ映画・アナ雪の主題歌は英語ではLet it goなのに日本では「レリゴー」というのか、なぜリスニング試験では高得点がとれるのに海外旅行に行った時に外国語が聞き取れないのか。これらの問いには全て音声学が関係します。

本書は、「音声学入門」のようないわゆるテキスト的な入門書とは少し違います。例えば「『コシラ』と『ゴジラ』、どっちの方が強そうなイメージを持つ？」や、「『サタカちゃん』と『ワマナちゃん』、どっちの女の子の名前の方が優しいイメージを持つ？」といった身近な質問を通して、「私たちが普段使っている『音』とは何か。『ことば』とは何か。」について考えます。

実は、母語に限らず、人はある音に対して同じイメージを持つことは珍しくありません。例えば、下図の架空図形2種類を見てください。名前をつけるとしたら、どっちが『マルマ』で、どっちが『タケテ』だと思いますか？おそらく、丸い図形がマルマ、カクカクした図形がタケテ、と思った人がほとんどではないでしょうか？なぜでしょう？？ 詳しくは、本書を読んでみてください！

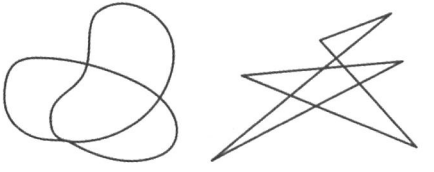

図 P.13より引用

増田 斐那子 Hinako MASUDA

理工学部講師。研究分野は音響音声学・聴覚音声学。上智大学外国語学研究科で修士（言語学）を取得後、上智大学理工学研究科で博士（学術）を取得。2016年4月より成蹊大学に着任。趣味はヨガ、料理、旅行。